

神戸駅 物語

明治7年に開通した大阪神戸間の鉄道は、当然のごとく、始発駅は神戸駅であった。

一番線物語

この神戸駅発足当時から、一番線が設置されました。

その後、明治23年の東海道線開業では、東京行きはもちろんのこと、その前年明治22年山陽鉄道(後の山陽本線)が接続されて、下関(当時は馬関)行き列車の出発もこの神戸駅が基点となり、全盛時代には多くの列車がこの神戸一番線から出発していました。

旧国鉄時代でも特急などの『優等列車』はこの一番線から出発するようになっていました。

昨今は、快速電車電車数本が利用するだけの寂しいホームになりました。

貴賓室物語

東海道線前線開通とともに、神戸駅には『貴賓室』が設けられました。

『貴賓室』は主として天皇陛下の行幸のときに利用されるもので、実は東京駅と京都駅に続いて神戸駅の3ヶ所にしか設置されていないものです。

昨今は、駅中の活性化のために神戸駅の『貴賓室』もショッピング、レストラン街に変身し、小さな一室になっています。

神戸駅の『貴賓室』は自慢してよい構造物だと思います。



鉄チャン 知ったかぶり ②

食堂『みかど』

『貴賓室』に時を同じくして、高級洋食レストラン『みかど』が開業しています。

今は、洋食という言葉が古くなってしまいましたが、当時は神戸駅の『みかど』で食事することはステータスとまでいわれていたそうです。この駅弁も、上等のものとして珍重されていたようです。

0マイルポスト

東海道線＝549.34km 山陽線＝0km ポストが5番線の海側障壁にあることも忘れるわけにはいかない。

神戸駅正面

